

事業所名	グループホーム本陣 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成19年 3月29日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 障害者自立支援調査員 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員 B:現職 理学療法士 資格・経験 理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師(3年)
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) ここが我が家と思って入居者が寛げるように、スタッフは黒子に徹して側面から入居者を支えるように支援し、外から頼ればホッと安心してもらえるような場作りに努めている。 豊富に木を使い、温もりのある落ち着いた環境の中で家庭的な雰囲気作りに努め、入居者にとって穏やかで楽しい暮らしを目指している。 入居者の健康に良いことなら可能な限り努力を惜しまず行い、安全で安心できる環境を提供している。 長年培ってきた人生の経験や特技を引き出し、その人らしく生き生きと暮らしてもらえるように支援している。 食生活には、特に重点を置いており、魚・野菜・肉それぞれ専門店で購入し、良質かつ新鮮な食材を調理して提供し、入居者が健康に暮らせるように努めている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が暮らしていて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) 入居者が得意とする手作り作品等をホーム内に飾り、入居者が自己表現できる場面を作っている。 リビングは、天窓から光が差し込み明るい。床暖房設備もあり、入居者が温かくのびのびと過ごせるように配慮している。 居室には、入居者の馴染みの家具や思い出の品を自由の持ち込んでもらい、くつろげるプライベート空間を作っている。 畳スペースでは、入居者が折り紙やはがき作り等、好きなことが自由に行えるよう支援している。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
宿場町として繁栄した歴史文化の町にふさわしく、当グループホームも落ち着いた古民家風の木造平屋建ての建物で、瓦屋根が和の風格を引き立てている。ホーム内は、木のぬくもりと安らぎのあるたたずまいとなっている。 近くには、井原線矢掛駅・役場・美術館・郵便局・スーパー等があり、生活にも便利で、入居者の外出時にも気軽に利用できる。 代表者は製材業を長く営んでおり、社会への恩返しを込めて福祉事業を起こした由来がある。椅子や机には、手作り家具調の木の温もりと品があり、また、食材や食器にも気を配り、「身体に良い物」、「匂と色彩」など食生活の充実に対する努力を惜しまない。 管理者を筆頭に、職員同士の信頼関係が築かれ、「心を一つにして入居者を支えていく」ことを主眼にサービスを提供している。職員間の連携をうまくサービスに反映させ、陰で支える介護を行っている。 2ユニット共有の中庭には広いウッドデッキがあり、テーブルを囲みながら四季の風を感じ、家庭菜園では旬の野菜を職員と一緒に育てている。 毎日の個別記録の様式を日々検討し、無駄を省き、簡潔で分かりやすくなっている。また、必要書類のファイリングがきちんと整理され、職員間の情報の共有が図れている。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
自主評価では家族同士の交流の機会を持つことを改善点にされているが、ホームと家族との信頼関係はしっかりと築かれており、今後は家族会の設置の実現と「本陣だより」がますます定期便となって家族と入居者の絆を深められることを期待する。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) グループ活動が難しい入居者には無理強いせず、その人の得意な事を引き出し、孤立しないように配慮している。 居室の透明ガラス扉が、切り絵風の和紙によってより本陣らしい雰囲気を演出しており、プライバシーの保護にもなっている。 入居者一人ひとりの生活歴を把握し、残存能力を生かした作業等を行い、達成感を味わいながら暮らせるように支援している。 排泄・入浴では、本人の残存機能を尊重した支援を行い、羞恥心にも配慮した介護を行っている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) 法律の改正や新しい情報には、常に耳を傾けて情報収集を怠らないようにし、得た情報については職員全員で共有している。 発熱や体調変化には、日頃から予防策を意識し、毎日の介護に取り組んでいる。 感染防止には力を入れており、毎日一回は手すりや床を消毒液で拭く、手洗い・うがいの励行、共有スペース・居室には空気清浄機を設置し、飲料水はアルカリイオン水を使う等徹底して行っている。 事故が発生した時は、早急にミーティングを開いて原因を突き詰め、再発防止に努めている。事前に察知できるよう、常に目配り気配りを心がけ、事故報告書・ヒヤリハットの記録は、今後の発生予防に役立てている。 医療連携体制については(入居者の日々の管理 定期的受診と投薬 必要時の看護業務 異変時の看護業務(24時間体制) 急変時の連絡簿)マニュアルを作成し、いつでも誰でも見えるように掲げている。		